



『 トルコと日本の友情 ～ エルトゥールル号遭難事故の話 ～ 』

今から120年以上も昔のこと、明治23年（1890年）にオスマントルコ帝国（今のトルコ共和国）から使節団650名を乗せた軍艦エルトゥールル号が明治天皇に拝謁するため、はるばる日本にやってきました。しかしその帰路、横浜から神戸へ向かう途中で船は台風に遭い、和歌山県串本町沖で座礁して沈没してしまっただのです。

残念なことに581名もの人が亡くなるという大惨事となりましたが、事故を聞きつけた串本町付近の住民が自らの身の危険もかえりみず救助した結果、幸いにも69名の命が助かったのです。そして日本政府は海軍の船を出して、その方たちをトルコまで丁寧に送り届けました。



この話はトルコでは現在までずっと語り継がれ、小学校の教科書にまで載っているそうです。そのためか、トルコは親日国としても知られています。

その事故から95年も経った昭和60年（1985年）のことです。中東でイラン・イラク戦争が勃発し、イラクのフセイン大統領が「イラン上空を飛行するすべての飛行機を撃ち落とす」と宣言してイランに駐在していた日本人250名が取り残されてしまいました。なんとその時、トルコ政府は危険を冒してまで自国の飛行機をイランに派遣し、無事に日本人を脱出させてくれました。トルコは100年近くも昔の恩を忘れていなかったのです。